

令和3年度事業報告

(1) 獨協埼玉中学高等学校

1) 主要な方針・施策

「自ら考え、判断できる若者を育てる」という本校教育の基本方針に基づき、更なる教育内容の充実、受験環境の整備に取り組みました。

また、併設大学への進学実績と他大学への進学実績を併せ持つ幅広い進路選択が可能な学校として、引き続き、併設大学との連携強化等に注力しました。

加えて、学校における新型コロナウイルス感染及びその拡大リスクを可能な限り低減した上での学校運営に努めました。

2) 主な事業実績

① 教学関係

A) 国際理解教育の推進及び外国語教育の充実

実施を予定していました姉妹校であるLevin Intermediate School校(ニュージーランド)及びPenola Catholic College校(オーストラリア)との交換留学、並びにSan Rafael Dominican University校(アメリカ)における夏季語学研修やエンパワーメントプログラムについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止を余儀なくされました。中学2年での国内宿泊型アメリカン・サマー・キャンプについても、同様の理由で実施を見合わせましたが、代替プログラムとして、ネイティブ講師による宿泊を伴わない3日間の校内英語研修講座「スプリング イングリッシュ プログラム」を実施しました。

「語学の獨協」の精神を受け継ぎ、使える英語、実践的な英語を身につけさせるために、英語に触れ、英語を使用する機会を増やすよう注力しました。また、上級段階では、英語で学ぶ機会を設けました。具体的には、中学1年から高校3年まですべての学年でネイティブ教員による授業を行い、20人以下の少人数としました。更に、中学3年での多読プログラム、高校1年での全員参加型のスピーチコンテストなど、運営方法にも工夫を加えつつ、英語関連イベントの実施、充実に注力しました。高校2年以上の上級レベルでは、英語を学習の手段とし、現代の諸問題を英語で学ぶ機会を設定しました。これは、ネイティブ教員が中心になって、すべて英語で行いました。どの学年でも、英語の指導に当たっては、読む・書く・聞く・話すの4つの技能を総合的に伸ばすことを目指しました。そのため、英検、GTEC、TOEICなどの外部試験の受験を積極的に進めました。なお、大学入試における民間英語試験の導入は延期となっていますが、ネイティブ教員担当による「話す・書く」中心の発信型英語授業を少人数授業(クラスを2分割)にて実施、継続しました。高校では、従来通り、ドイツ語の授業の提供を継続しました。

B) 自己点検評価とFD活動の推進

PDCAサイクルを通じて授業の向上を図るため、年度当初にシラバスを作成し、各授業の目標、教材、指導方法、進度等を明確にし、授業を行いました。2学期末に予定して

いた生徒による授業アンケートは見合わせました。

C) 自習環境の整備

日常的な家庭学習を促す施策の一つとして、専用手帳を活用した勉強マラソンを継続しました。自らの家庭学習時間数を、学年、クラス平均時間数と対比できるようにすると共に、担任によるコメントをフィードバックし、学習に対するモチベーションの維持・向上に注力しました。自学自習力の向上等を目的とした高校2年の希望者を対象とした合宿によるサマーセミナー(3日間)は、実施を見合わせました。

D) 環境教育

オカワカメによる中学棟の壁面緑化を継続し、ビオトープの維持・整備を行いました。

②管理運営関係

A) インターネット関係

[ホームページの充実]

生徒募集活動効果の更なる向上を図るべく、訴求力のあるホームページ作りに努めると共に、積極的に活用し、情報発信力の一層の向上に注力しました。

[スクールWEBの監視]

生徒プロフ、掲示板、裏サイトを検索・監視し、生徒のネットいじめ、トラブルの防止及び個人情報の保護に注力しました。

B) ICTの一層の活用

ICTの一層の活用に努め、個人情報の漏洩防止、情報の蓄積・共有化、情報伝達の効率化、業務の効率化等に取り組みました。

C) 教務管理システムの円滑な活用による教務事務の効率化

教務事務の一層の効率化を図るべく、教務管理システムの円滑な活用に取り組みました。

③施設設備関係

施設・設備に関しては、新型コロナウイルス関連対応力の向上に努めました。ひとつには、授業体制の一層の向上・多様化を含め、学習効果をより一層高めるべく、ICT環境の整備を進めました。校内LANの整備を夏に完了させ、2学期より、生徒全員が1台のChromebookを保有する体制としました。通常の授業においても、ICTを積極的に活用すると共に、不測の事態への対応力向上に努めました。なお、生徒がChromebookを調達するに当たっては、1台につき1万円の補助を行いました。

また、ハンディ型AIサーマルカメラ及びドーム型AIサーマルカメラセット、非接触型赤外線温度計を調達・活用し、効率的な体温チェック体制としました。

不具合事象が見られた第2体育館の誘導灯蓄電池及び校内防火シャッターについては、交換・修繕を行いました。また、経年劣化により、図書館のテーブル、ラグビー練習用スクラムマシン等を更新しました。